

## 「類義語その9と as の使い方」

6月は、様々な用事や作業が重なり、この英語のちょっとした話題を執筆する時間が取れなかったので、サボってしまいました。今月は、言い訳せずに書くことを自分に言い聞かせて書いています。

初めに、ちょっとした話題として日本語の「ごますり」に対応する英語表現について、apple polisher または apple-polisher と言うのは良く知られていると思います。これは、昔、子供が学校の先生に一所懸命ピカピカに磨いた林檎を持って行くことで褒めてもらうことが元になっています。これ以外では、ちょっと汚い表現ですが、brown-nose または brownnose があります。apple polisher は名詞ですが、brown-nose は、名詞としても動詞としても使用できます。

apple polisher の方は、揶揄される場合にも使いますが、someone who humbles himself as a sign of respect 「尊敬の印としてかじこまる人」の感覚もあり、それほど悪いことではないと思います。brown-nose は「黄色い鼻」ですが、その意味は to try too hard to please someone, especially someone in a position of authority, in a way that other people find unpleasant で「他人が不愉快となるような方法で権威のある人へのあまりに露骨なへつらい」のような意味となり、これは昔に軍隊の中で使用された言葉です。要は、お尻にキスするようなごますりとなり、そのため鼻が茶色（ゲーッ！）になると言うことになります。この言葉は学校やビジネスシーンでは使うことはなく、子供には使ってはいけないと教育します。(以前に書いた shit と同様) その他の表現としては、butter someone up や butter up to someone があり、その意味は to flatter someone; to treat someone especially nicely in hopes of receiving special favors 「媚びへつらう、歓心を買うために特に善く対応すること」となります。

## 「開催する」「開催される」の意味の HOLD, TAKE PLACE, HAVE, GIVE

会議・イベントを開催するとか開催されるとかは良く出てくる表現ですが、それを英語表現しようとする、基本はシンプルですが、内容や状況によって使い分けする必要があります。

hold は、開催するの意味で人や団体などの主催者や開催者が明確で重要な場合に、それを主語として能動態で表現します。 We are planning to hold an international symposium on ~. 「～に関する国際シンポジウムを開催することを予定している。」

会議やイベントを主語として主催者・開催者よりもそれらに視点をおく場合は、受動態で「開催される」との表現で Olympic Games are held every four years. 「オリンピックは4年おきに開催されます。」 となります。

開催されるの他の表現として take place があり、これは開催されるイベントなどを主語にしますが、受動態にはならず能動態での表現で、The discussion will take place next Friday. 「審議は次の金曜日に開催されます。」

日常会話などでパーティーを開催するなどの場合は、hold でも良いですが、have の方がよく使われます。

She is going to have a big party for her 20 years old birthday. 「彼女は二十歳の誕生日に盛大なパーティーを開くつもりです。」 have a party と同様に throw a party という表現もあります。

主催者を主語として give を使うパターンもあり、例えば、My teacher will give a seminar this weekend. 「私の先生は今週末にセミナーを開催します。」

招集するとの意味の動詞を使って開催することを表現することも可能で、call, assemble, convene, convoke, convocate (convocate は、1700年代に使われていて、最近殆ど使われていないようですが)などで、I call a meeting. 「会合を開催(招集)する。」、The UN will convene an international conference on nuclear security. 「国連は、核平和に関する国際会議を開催(招集)する。」などの表現となります。convoke や convocate は、改まった文語体の表現で、例えば、日本国憲法第一章第七条の天皇の国事行為の二として「国会を招集すること」が定められていますが、この英語表現は、Convocation of the Diet. となります。

## 接続詞、代名詞(関係代名詞)、前置詞、副詞の as について

前回約束したように、今回は、as の使い方や用法について少し整理して書いてみます。as そのものは4つの品詞で使われますが、使い方も様々で文法的に覚えるのは大変です。しかし、as の基本的な意味を押さえておけば、その使用例などを多く理解することによりわかりやすくなるかと思えます。as の基本的な意味としては、2つの並べられた物や事が等価の関係にある事を表します。その意味から「同時性」「理由」「逆説」「類似性」「役割」を表現するこ

とになります。

### 1. 同時性の as: 時を表す副詞説を導く接続詞としての用法

類似する接続詞としては、when (ある行為が行われる時点に関心が置かれ、瞬間的な時間を意味する、～するとき) や while (ある行為の背景に関心が置かれ、～している間) と同様に 2 つの事態が等価の関係に置かれ、継続的な時間を表し、～する時、～しながら の表現となる。

When he regained consciousness, he found himself in a hospital. 「意識を回復した時には、病院にいた。」

The accident occurred while the plane was taking off. 「飛行機が離陸中に事故が起きた。」

He went out just as I came in. 「私と入れ違いに彼は出て行った。」

ちょっと横道に逸れますが、while と during の違いについて。どちらも～している間を表すので同じと思われるかもしれませんが、while は接続詞で、during は前置詞ですので、while の場合は、文や節 (つまり主語と動詞がある) を続けませんが、during の場合は、名詞などの句を続けます。この違いを例として「夏休み中に」では、  
“while I’m in summer vacation” と “during my summer vacation” となることでわかり易いかと思います。

### 2. 理由の as: 理由を説明するための接続詞としての用法

英語で理由 (～なので、や ～だから など) を表すときに使われる接続詞として、because, since, as があり、これらのニュアンスは微妙なのですが、説明を試みます。

自分が伝える理由が相手の知らないことの場合や、理由の内容が重要で相手に伝えたい場合に“because” を使います。それに対して as は、伝える理由を相手も知っている時やその理由が明らかな時に使います。since も as と同じで一応補足として伝えておくような場合に使用されます。as の方が since より少しフォーマルな感覚です。口語や砕けた感じでは「だから」のニュアンスで so が使われることもあります。

I agree with his opinion because I trust him. 「彼を信頼してるので、彼の意見に賛成です。」

As it is dark outside, please drive carefully. 「外はもう暗くなっているので、運転に注意してね。」

Since my old car was totaled, I bought a new one. 「前の車は廃車にしたので、新車を買った。」

It is dark outside, so please drive carefully. 「外は薄暗いよ、だから運転に注意してね。」

My old car was totaled, so I bought a new one. 「古い車は廃車にして、だから新車を買った。」

### 3. 逆説の as: 譲歩などを表現する接続詞としての用法

～だけれども、～ながらもなどの表現で though (although) などと同じ様な表現があります。形容詞や副詞または動詞の原型の後に as で主語と動詞・助動詞 (may, might, will, would) を使って

Young as he was, he held a responsible position. 「彼は年こそ若かったが責任のある地位にあった。」

Cold as it was, she didn't wear a coat. 「寒かったが、彼女はコートを着ていなかった。」

Try as you may, you won't find the solution of the problem. 「どんなに努めてもその問題の解は見つからない。」  
though を使う場合には Though he was young, he held a responsible position. となり、as を使う場合の文法が不思議に見えますが、これは、(As) young as he was や (He was) young as he was などの括弧内が省略された用法として見ると、なんとなく理解できるのではと思います。

今回は、ここまでにして、次回は as の他の用法や イディオムについては次回にまとめるようにします。